

第1学年 国語科学習指導案

日 時：平成25年10月22日（火）
学 級：見前南中学校 1年1組
生 徒：男子19名、女子14名、計33名
指導者：東 優 子

- 1 **単元名** その本を読みたくなるような「読書ボード」を作ろう
教材名 「少年の日の思い出」（光村図書1年）
補助教材 生徒各自が選んだ本
「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」（岩手県教育委員会 平成23年2月）

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ◎ おすすめの本を「読書ボード」にまとめることを通して、文章の構成や展開、表現の特徴、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、それについて自分の考えをもつことができる。
- 友達にすすめたい本を選び、その内容を進んで紹介しようとしている。 【意欲・関心・態度】
- 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもつことができる。 【読むこと エ】
- 文章に表れているものの見方や考え方に共感したり疑問をもったりしながら、自分の考えを広げることができる。 【読むこと オ】
- 意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味をとらえることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ(イ)】

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○友達にすすめたい本を選び、その内容を進んで紹介しようとしている。	○文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをもって本を紹介している。 ○選んだ本の文章に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして自分の考えを広げ、本を紹介している。	○文章を読んで、意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。

(3) 単元を貫く言語活動

自分が選んだおすすめの本を読書ボードにまとめ、紹介する。

3 単元について

(1) 子供の実態

「にじの見える橋」では、場面の展開や登場人物の行動の描写から主人公の気持ちの変化を読み取った。「星の花が降るころに」では、文脈の言葉に注意しながら作品を読み、登場人物の考え方に共感したり、疑問をもったりしたことについて自分の考えを発表し合った。また、「大人になれなかった弟たちに」では、登場人物の思いや行動、情景描写に着目しながら自分の考えを深めてきた。どの教材でも自分の考えをさらに深め、広げるために交流場面を多く設定してきた。これらの学習を通して、文章を読み、共感したり疑問にもちながら自分の考えを発表することはできるようになってきたが、言葉に着目したり、文章構成や表現の特徴を分析的にとらえることはまだ十分とは言えない。

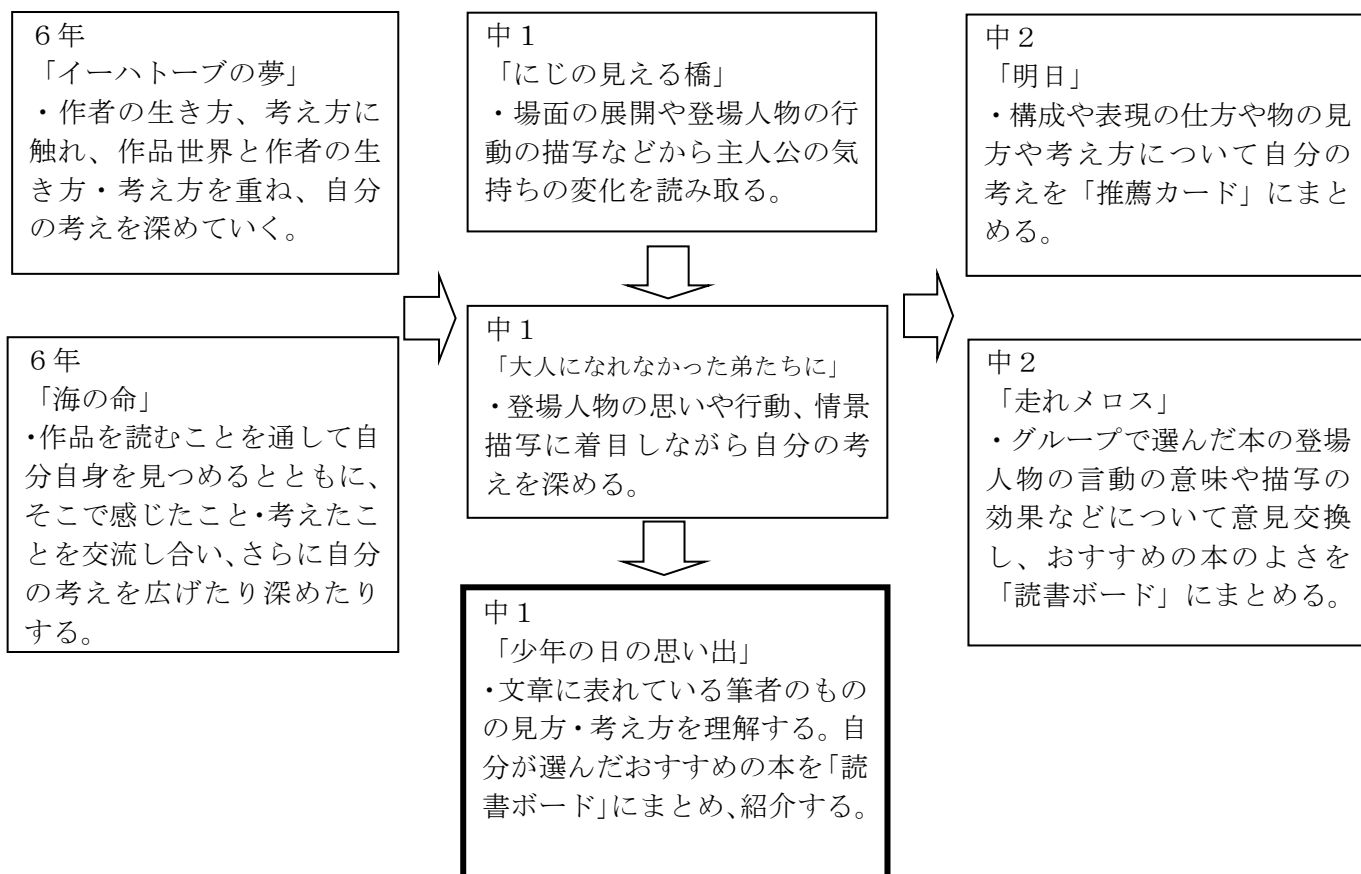
おすすめの本を「読書ボード」にまとめ紹介することで、文章の工夫や効果について分析的にとらえ、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつことができるようにしていきたい。

(2) 教材について

「少年の日の思い出」は、現在から過去の回想で終わっており、現在に戻っていないところに構成の特徴がある。過去の回想場面の展開は、クライマックスで終わっている。少年期特有の物事に熱中する気持ち、誘惑に負けて失敗をしてしまうこと、自分の行いを深く反省することなど、中学生にとって共感しやすい気持ちや行動が描かれている。「熱情」「欠陥」「欠点」「冷淡」「冷然」等、類義語が微妙に書き分けられている点にも着目させながら読み進めていきたい。

また、3次では「岩手の中高生のためのおすすめの図書100選」を中心に選書させたいと考えている。

◎単元の位置づけ【言語活動の系統性】



(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として「自分が選んだおすすめの本を読書ボードにまとめ、紹介する。」と位置づけた。読書ボードには、キャッチコピー、印象的な本文の引用、本の魅力の紹介(300~400字程度)、イラストを位置付ける。読書ボードの構成要素に、文章の展開、表現の特徴、書き手のものの見方、登場人物の心情や情景描写等の内容を組み入れることで、「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつこと(C読むことエ)」「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること(C読むことオ)」を実現できるようにしている。

第1次では、単元の見通しと活動のゴールを生徒に明確にもたせる。「大人になれなかった弟たちに」で作成した教師作成の「読書ボード」のモデルを示し、それぞれの工夫点を個々に考えさせるとともに、グループ協議、全体交流を行うことで、どのように読書ボードを構成するか見通しをもたせる。

第2次では、「少年の日の思い出」を読み、グループ読書会を行う。特にも「構成・展開・表現の特徴(書きぶり)」が話題となるようにワークシートを工夫しながら、多様なものの見方や考え方ができるように話し合いを組織する。その後、紹介する読書ボードを作成し、学級で交流する。

第3次では、自分たちのおすすめの本の「読書ボード」を作成し、学級で交流する。「少年の日の思い出」の学習を踏まえ、おすすめの本からも心情や行動など共感できるところや疑問に思ったこ

と、構成や展開、表現の特徴などを見つけ、印象に残った本文を引用したり、本の魅力を紹介する文章をまとめたりしながら読書ボードを作成することにより、文章の工夫や効果について分析的にとらえ、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつことができるようにしていきたい。そして、多くの本に興味関心を高め、読書生活につなげていきたい。

4 単元の指導計画と評価計画(全12時間)

次	時	主な学習内容と学習活動	評価規準
事前		「どくしょ甲子園」の入賞作品や先輩方の「読書ボード」を掲示し、読書に対する興味関心を高める。	
1	1	1. 単元の見通しをもつ ①「読書ボード」の目的を知る。 ○「読書ボード」とは何か。 ○「読書ボード」を作る過程やグループ読書で、どんな力がつくのか。 ②活動のゴールを知る。(モデル) ○高校生の作品と教師の作品を比べる。 ③学習過程を知る。(読書会⇒読書ボード) 2. 「大人になれなかった弟たちに」の「読書ボード」の工夫点について気づいたことを、個人で付箋に書いて「読書ボード」に貼る。 3. 今日の学習を振り返る。	<p>関 読書ボードに興味を持ち、学習に意欲を持っている。 ☆発言・観察・学習シート</p> <p>読 読書ボードの工夫点を付箋に書いている。 ☆観察</p>
	2	1. 「読書ボード」の工夫をグループでまとめる。 2. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒中心にまとめる。 3. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒が説明する。 4. 自分はどのパターンでまとめたいのかを発表する。 5. 今日の学習を振り返る。	<p>関 ファシリテーターを中心に自分たちの考えを発表している。</p> <p>読 工夫点をグループで発表し短冊にまとめている。 ☆発表・観察</p>
	3	1. グループごとにどのパターンでまとめるかを話し合う。 2. 「少年の日の思い出」を読み、意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈をとらえる。	<p>言・読 文章を読み、語句の意味や文脈をとらえる。 ☆観察・学習シート</p>
	4	1. グループ読書会のやり方を確認し、分担する。 2. グループ読書会を行い、疑問や共感できるところを交流し合う。 3. 今日の学習を振り返る。	<p>関 読書会に意欲的に参加している。 ☆発言・観察</p> <p>読 疑問や共感できるところを考えている。 ☆観察・学習シート</p>
6	1. グループ読書会を受けて、「少年の日の思い出」を紹介する「読書ボード」の内容を考える。 8	①個人で考える。 ○本をすすめるキャッチコピー ○印象的な本文の引用 ○本の魅力(300~400字程度) ○イラスト ②グループで話し合う。 2. 「少年の日の思い出」を推薦する「読書ボード」をグループで完成させる。	<p>関 読書ボード作成に意欲的に参加している。 ☆観察</p> <p>読 読書ボードの内容を考えて、本の魅力について書いている。 ☆学習シート</p>

自分が選んだおすすめの本を読書ボードにまとめ紹介する

9	1. 「読書ボード」を交流する。 ○代表が2分以内で発表する。 2. 学級で最優秀賞と優秀賞を選ぶ。 ①個人でよいと思ったもの(理由)2点を選ぶ。 ②グループでよいと思ったもの2点を選ぶ。 ③全体で最優秀賞1点と優秀賞数点を選ぶ。(協議)	関意欲的に交流会に参加している。 ☆観察・学習シート
3	朝読書などを活用(自分のおすすめの本を「読書ボード」にまとめる) 「いわての中高生のためのおすすめ図書100選」などを利用して本を選ぶ。	
10 11 12	1. 自分のおすすめの本を「読書ボード」にまとめる。 2. 「読書ボード」を完成・交流する。 3. 学級で入賞作品を決める。 ①個人でよいと思ったもの(理由)2点を選ぶ。 ②グループでよいと思ったもの2点を選ぶ。 ③全体で最優秀賞1点と優秀賞数点を選ぶ。(協議)	関意欲的に作成・交流会に参加している。 ☆観察・学習シート 読表現の特徴や構成・展開などに着目しながらまとめている。
事後	学年で入賞作品を決め、図書館や廊下に掲示する。	

5 本時について(2/12時間目)

(1) 本時の目標

「大人になれなかった弟たちに」の3つの「読書ボード」の書き方の工夫を話し合い、おすすめの本の「読書ボード」をどのように書きたいのかを考えることができる。

(2) 本時の評価規準

観 点	評価規準	評価方法	Bを実現していない学習者への手立て
読むこと	読書ボードの書き方の工夫点に気づき、交流し合う中で、おすすめの本の読書ボードをどのようにしたいのかを考えている。	学習シート 発表 観察	工夫点を交流し合う中で自分が共感できることを考えさせる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点 評価(◇) 言語活動(※) (形態)
導 入 5 分	1. 今日の学習活動の見直しをもつ。 ①前時書いた付箋の見直し ②気づいたこと ③グループ協議 ④ABCでの協議 ⑤全体交流 ⑥個人での振り返り(自分はどうかを考える) 2. 役割を確認。 ○グループ司会 ○代表(A、B、C) ○ファシリテーター ○オブザーバー ○記録 「読書ボード」の書き方の工夫を話し合い、おすすめの本の「読書ボード」をどのように書きたいのかを考えよう。	○前時の活動を振り返りながら学習課題を確認し、本時の活動の見直しをもたせる。 ○協議の目的・手順・視点を確認し、ファシリテーターを中心に話し合うことができるようにする。

<p>展 開 40 分</p>	<p>3. 3つの「読書ボード」の中で自分たちが選んだボードの工夫点をグループで協議する。(学習シートに沿って、グループごとに司会者の進行で協議を進める。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーの工夫 (最も伝えたいこと、読む人の興味関心を引くもの、字の大きさ・形、新たなものの見方・考え方、違う視点など) ・本文の引用の工夫 (登場人物の心情や行動、情景描写など) ・紹介文の工夫 (文章の構成・展開・表現の特徴・書き手のものの見方や考え方のよさ、自分の考え、レイアウトなど) ・イラストの工夫 (情景や人物の描写、キャッチコピーや本文の引用と関連づけたもの、伝えたいことなど) ・その他 <p>4. 3つの「読書ボード」それぞれの工夫をファシリテーターの生徒中心にABCに分かれて協議する。</p> <p>5. 全体で交流する。</p> <p>①3つのグループそれぞれの協議内容をファシリテーターの生徒が説明する。</p> <p>②オブザーバーが、協議の様子を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の良かった点や改善点など <p>6. 自分はどうのような読書ボードを作りたいのかを考える。</p> <p>①話し合いを通して、この工夫を使いたいと思った自分の考えを根拠も含め記述する。</p> <p>②考えを交流する。</p>	<p>○協議がうまく進められないグループには協議の視点を再度確認する。</p> <p>*個人で「読書ボード」の工夫について書いた付箋を発表しながらグループごとにまとめる。 〈グループワーク〉</p> <p>◇*読書ボードの書き方の工夫点について、交流し、グループごと短冊にまとめている。 (発表・観察)</p> <p>◇*ファシリテーターを中心に自分たちの考えを発表している。 (発表内容・観察) 〈グループワーク〉</p> <p>*ファシリテーターが発表する。 〈クラスワーク〉</p> <p>*オブザーバーの評価をしっかりと聞き、見方・考え方を広げる。 〈クラスワーク〉</p> <p>○話し合った内容をもとにどのようなものを作りたいか考えさせる。 〈パーソナルワーク〉</p> <p>◇協議や交流を受けて、読書ボードをどのように作りたいか、自分の考えを根拠を含めて書いている。 (学習シート)</p> <p>○表現の特徴や文章の構成などについて書いている生徒を意図的に指名し、どのように工夫すればよいか気づくことができるようにする。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>7. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・感想を発表する。 <p>8. 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○本時の学習内容を理解し、課題を達成できたか自己評価させる。 〈パーソナルワーク〉</p> <p>○グループごとにどのような読書ボードを作りたいのかを考える。</p> <p>○「少年の日の思い出」を読み、意味のわからない語句を調べ、文脈を読み取ることを確認する。</p>

(4) 板書計画

読書ボードを作ろう

「読書ボード」の書き方の工夫を話し合い、
おすすめの本の「読書ボード」をどのよう
に書きたいのかを考えよう。

Aの読書ボードの工夫点

Bの読書ボードの工夫点

Cの読書ボードの工夫点

協議の様子・評価など

学習の
見通し